

道

2022年11月9日
(第88号)



「老いと演劇」ワークショップ
(左が菅原さん)

真備町豪雨災害から四年四か月が過ぎました。あれから様々な復興や防災の取り組みが行われてきました。今年の九月から始まったワークショップ(全五回)もそうした活動の一つです。「演劇」を通して「防災」と「認知症」を考えると、最終日には受講者発表会が行われました。▼講師は岡山県北で高齢者施設に勤めながら「老いと演劇」がテーマの劇団を主宰し、多方面から注目を浴びている菅原直樹さん。受講したのは、地域住民、高齢や障害のケアに関わる人、行政関係者など、高齢者から若者まで多彩です。ほとんどが演劇の経験を持ちません。▼参加者は、災害、老い、認知症、障害、日常生活での困りごとなどから、自ら選んだ課題をもとにグループを作って、それをテーマに即興劇を作っていました。▼菅原さんがこのワークショップで強調したのが「対話」です。劇中で、異なる意見や思い感情が相まみえてぶつかる場面を設定します。両者がそれぞれ自分を出しつつ、「対話」の中で、第三者の仲介などもあってお互いが納得いくような着地点を見いだしていくのです。配役はどうする、どんな場面を展開させるか、など、劇作りの話し合いに多くの時間を割きました。ここでの「対話」も重要です。劇の中と、劇作りプロセス、ふたつの「対話」がありました。▼文字になった脚本はありません。結果的に、笑い笑いの発表会となりました。私たちは災害や認知症など重いテーマを扱っています。沈みがちになります。ですが、楽しい雰囲気の前向きに取り組む続ける力になるのではないかと。そんなことを思わせてくれるワークショップでもありました。僕は頑固な爺さんを演じました。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也



遠田 椋の木